

京都・長岡京跡(2)



(京都西南部)

調査地は、向日丘陵の東側に広がる標高一三m前後の沖積地で、長岡京の左京三条三坊一・二・八町及び二条三坊五町にわたっており、二条大路・三条第一小路・東三坊第一小路の通過箇所に当る。今回の調査は、日本道路公団の名神高速道路羽束師川橋架替工事に伴い、左京第一五一次調査として実施した。

その結果、弥生時代中期から中世にいたる各種の遺

- 1 所在地 京都府向日市鶏冠井町清水
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)四月～八月
- 3 発掘機関 財京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 4 調査担当者 村尾政人・辻本和美
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

構・遺物を検出した。このうち、長岡京期に属するものとしては、前記の各道路側溝のほか、掘立柱建物一棟・柵二条がある。

遺物には、須恵器・土師器等の土器類をはじめ、少量の瓦片・土馬脚部・木簡および獣骨等の自然遺物等がある。

木簡は、推定二条大路南側溝から南方二〇mの掘立柱建物跡の北西隅柱抜き取り穴埋土から出土した。建物の柱穴は、計四カ所を確認したのみで、全体の方角・規模については不明である。柱掘形は、一辺一m前後の隅丸方形で、東西の柱間は二・七m(九尺)、南北は二・一m(七尺)、二・七六m(九尺)とばらつきがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「越前国大野郡□□□□□□□□□□」(郷カ)〔部カ〕
(167)×22×3 059

上端頭部の左右の角は斜めにおとす。下端は腐触している。

9 関係文献

財京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報第二十二冊』(一九八六年) (辻本和美)

